

令和4年度第4回狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する
審査委員会会議録

- 1 日 時 令和5年2月16日（木）午後7時～7時40分
- 2 場 所 4階特別会議室
- 3 出席者 委員長 押尾 賢一（学識経験者）
副委員長 渡辺 秀貴（学識経験者）
委 員 惣川 ひさえ（市民委員）
委 員 氏家 嘉代（市民委員）
- 事務局 植木 崇晴（学校教育課長）
佐々木 淳樹（学校教育課教育庶務係長）
藤田 真衣（学校教育課教育庶務係）
三角 紳太郎（学校教育課教育庶務係）
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事 1. 議題
(1) 令和4年度狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会答申について
(2) その他
- 7 会議概要
- 委員長 これより、令和4年度第4回教育委員会自己点検及び評価に関する審査委員会を開催する。まずは事務局から、本日の資料の確認をお願いする。
- (事務局より資料確認)
- 委員長 資料に不足等なければ、次第に従い、議事を進める。
議題1「令和4年度狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審

査委員会答申について」、審議する。事務局より説明をお願いする。

(事務局より資料1に基づき概要説明)

委員長 それでは、議論を進めていく。まず、「令和4年度狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会答申について」の部分について、順次意見を伺う。

惣川委員 答申案はとても具体的で分かりやすくまとめられており、市民に理解していただけるものとなっていると思う。

氏家委員 答申案はとても分かりやすいと思う。子どもたちが小中学校を卒業してから、保護者は学校の情報が分からなくなる。コミュニティ・スクールについて、コミュニティ・スクール通信の他に、地域向けの情報発信を行っているのか。

事務局 現在、コミュニティ・スクール通信が主な情報発信手段となっており、学校だよりや次号の教育委員会広報誌のガクチキにQRコードを掲載することで、コミュニティ・スクール通信への誘導を考えている。また、教育委員会のホームページで教育長のメッセージ発信等の他に、来年度以降に各ゾーンの育てたい子ども像の一覧を作成することや、各ゾーンの取組みをTwitter等のSNSで発信していくことも検討している。

副委員長 答申案は各項目に関する議論の重要なポイントが捉えられており、かつ全面的に分かりやすく整理されていることに感謝する。評価事業は大変な部分があるが、このような形で委員の声を整理していただき、報告していただけることで、私たちもお役に立てたのではないかと実感した。

委員長 答申案の内容は良いと思う。先日、日本経済新聞社の記者から、去年日本全国で生まれた子どもが77万人で、40年間でほぼ半減しており、少子化の進行から今の学校体制がそのまま継続していくと考える方が良いという話を伺った。新聞記者のように長期的な視点でより大きな枠組みで教育を考える必要があると思った。東京都では、小池知事が東京の子どもたちを確保するために、様々な少子化対策を打ち出しているが、地方では、少子化の進展がより深刻である。

現在、狛江市は4つの中学校区でコミュニティ・スクールを進めてい

るが、子どもたちの人数が減っていく中で、将来的には中学校区を2つにしなければいけないかもしれない。狛江市で進めている施策を持続させていくためには、長期的な視点で将来を見据えて、コミュニティ・スクールのコーディネーターの後任の育成等も含めて、今からできる手立てを少しずつ考える必要がある。

答申案については、最終的には事務局と私に一任願いたいですが、どうか。

<了承>

委員長 それでは、議題1はこれで終了する。本日いただいた御意見を踏まえ、私と事務局で文言調整を行い、この審査委員会からの答申書としたい。

今年度はこれで最後となるが、最後に、委員としての感想・意見等を伺いたい。

氏家委員 教育委員会の職員の皆さんは狛江市の子どもたちのことを真剣に考えてくださっていることに感謝している。様々な取組みがもっと市民や保護者に伝わると良い。狛江で育って、大人になってからも狛江に戻ってくるような子どもたちが多く育つと嬉しい。

惣川委員 コミュニティ・スクールをとおして、学校教育が各ゾーンの地域の方々とつながっていくこと、また学校教育だけでなく、その先にある社会教育にもつながっていくことを期待している。今年度はこの会議に参加させていただき、とても有益だった。

副委員長 私は狛江市の学校の管理職から大学に勤務してから5年目となり、そこで狛江第六小学校と狛江第四中学校の校内研究会に関わってきた。狛江第六小学校では、月2回研究授業が行われ、狛江第四中学校では、生徒がより主体的に自ら学んでいく力が高められるような公開授業が行われた。千代田区のICT推進校の研究発表会に参画しているが、様々な教科でICTが活用されており、ブラインドタッチでタイピングができる1年生の子どももいる。自治体の財力によって、教育環境が異なってくる。その中で、働く人たちが知恵を出し合いながら協力していくことで、与えられた人的資源等を最大限活用して最大限の教育効果を生むしかない。これからも、外部で得た情報を提供させていただき、狛江市の子どもたちが良い環境の中で成長できるよう応援させていただきたい。

委員長 学校教育と社会教育が連携しながら、各地域のゾーンの中でコミュニティ・スクールを進めていくためには、学校だけでは実現できないことについて、社会教育の関係者を巻き込んで実行していけるような実行力のあるコーディネーターの役割が重要だと思う。子どもたちが多様な物の見方ができるようになると、色々な人とのつながりの中で成長し、人とのつながりの輪もますます広がっていく。学校の教員がコミュニティ・スクールを意識するよう、そして、多くの地域の方がコミュニティ・スクールに関われるよう、教育委員会から強く発信していただきたい。

学校教育課長 私は粕江市役所で長年勤務している中で、色々な委員会を経験してきたが、この委員会では、皆様が活発に議論していただいたおかげで、良い答申ができたと思う。皆様からいただいた議論を今後の事業活動に活かしていきたい。

委員長 これで令和4年度の粕江市教育委員会の自己点検及び評価に関する審査委員会を終了する。